留学報告書

記入日：2026 年 06 月 20 日

所属学部・学科	経営学部・公共経営学科
性別	☒男性　☐女性
留学先国	英国
留学期間	2025 年 9 月～2026 年 6 月
留学時の学年	5（4）年生（渡航した時の学年）←留年して二回目の四年生次
帰国年月日	2026 年 6 月 19 日
明治大学卒業予定時期	2027 年 3 月
留学先大学について	
大学名（英文・和文）	英文：Cardiff University 和文：カーディフ大学
所属学部またはコース名	Business School Business and Economics Exchange
キャンパスの所在地	Cathays Park Campus, Cardiff, Wales, UK
形態	☒国立　☐公立　☐私立　☐その他
学年暦（Academic Year）	春学期：2 月～6 月（期末試験期間：5 月・6 月） 秋学期：10 月～1 月（期末試験期間：1 月）
所属学部の学生数	2500 人程度
留学生の割合	20%程度

留学にかかった費用（概算）

項目	現地通貨（£）	円	備考
授業料	0	0 円	☒ 交換留学のため，留学先への授業料免除
宿舎費	7,000	1,400,000 円	一ヶ月：160,000 円
食費	3,000	600,000 円	一ヶ月：70,000 円
通学費	0	0 円	徒歩での通学
学校用品	0	0 円	教科書は全てオンラインで完結
教養・娯楽費	1,600	320,000 円	一か月：36,000 円
被服費	0	0 円	特に無し
医療費	0	0 円	歯医者で一万円も保険で回収の予定
保険費	450	90,000 円	保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
渡航費	1,400	280,000 円	往復での購入
旅行費	3,500	700,000 円	留学中に旅した国：ドイツ
奨学金/助成金	6,500	1,300,000 円	奨学金：1,000,000 円（JASSO 奨学金） 助成金：300,000 円（外国留学奨励助成）
その他	0	0 円	
合計	10,450	2,090,000 円	（奨学金/助成金を差し引いた金額）

渡航について

1）航空券を購入した時期

☐留学先へ出願後　☒入学許可書受領後　☐ビザ取得後　☐出発直前　☐その他（　　）

2）どのように購入しましたか？

ANA のサイトで往復を購入

3）渡航経路を教えてください。

（往路）羽田空港－ロンドンヒースロー空港
（復路）ロンドンヒースロー空港－羽田空港（経由）－ミュンヒェン空港

4）航空券代金

利用航空会社： 全日本空輸株式会社（ANA）
往路： 140,000 円
復路： 140,000 円
合計： 280,000 円

5）渡航に関するアドバイスがあればご記入ください。

特に無し

留学中の滞在先について

1）種類（留学中の滞在先）

☒寮　☐アパート　☐ホームステイ　☐その他（　　）

2）部屋の形態

☒個室　☒相部屋（同居人数：5 人）←ベッドルームバスルームは個別、キッチンやリビングは共有

3）住居の探し方

☒留学先機関が斡旋　☐自分で探す

4）大学までの利用交通機関と通学時間（片道）

利用交通機関	☐バス　☐電車　☐自転車　☒徒歩　☐その他（　　）
通学時間（片道）	10 分

5）滞在中の食事について

【平日】	【休日】
朝：☐寮　☒自炊　☐外食　☐その他（　　）	朝：☐寮　☒自炊　☐外食　☐その他（　　）
昼：☐寮　☒自炊　☐外食　☒その他（大学学食）	昼：☐寮　☒自炊　☐外食　☐その他（　　）
晩：☐寮　☒自炊　☐外食　☐その他（　　）	晩：☐寮　☒自炊　☐外食　☐その他（　　）

6）滞在先に関する総合的な感想（これから留学する人のためのアドバイス）

まず、留学生が住める場所は、通期の留学生と半期の留学生で変わります。通期の留学生は大学が運営する学生寮に入居できますが、半期の留学生は私営の学生寮を探して住まなければなりません。私営の学生寮は設備的に考えると良い寮もありますが、私営の学生寮は半期の留学生が入る事が多いため現地の学生と接点は少ないかもしれません。大学が運営する学生寮は現地の学生の一年生（と通期の留学生）が主に住むため、現地の学生と接点は非常に多いと考えております。中でも、Talybont という学生村は 3000 人以上？の学生が暮らしているらしく、大学では最大級の学生寮のため、現地学生との濃厚な接点を持ちたい場合にはおすすめです。Talybont には南側から Court, South, North, Gate と 4 つ学生寮が連なっており、私は一番南の Court に住んでおりました。キャンパスは Talybont の南側にあるため Court が一番通いやすいですが、同時にパブやクラブも Talybont の南側にあるため特に毎週水曜日と金曜日と土曜日は深夜二時ごろまで路上で騒いでいる Talybont 全部の住人の通り道になるため騒音がすごいです。（日本にいると信じ難いですが、現地の学生にとってはクラブに行く事は重要なようでほぼ毎週のように行く人も珍しくありません）偶然私は道路とは反対側の 2 階（日本では 3 階）に住んでいたので窓を閉めている限り騒音には悩みませんでしたが、ここには運要素が強く関わってしまいますね。また、これはどこの寮にも当てはまりますが、同居人の相性に関して運要素が絡みます。私の同居人は皆親切で互いを思いやりながら生活していたので楽しく生活をできましたが、友人の話では深夜までうるさく騒ぐ人や逆に挨拶をしても素気ない人やゴミの当番を行わない人もいるようです。そのあたりは運に任せるしかないですね。ちなみに居住性については、Talybont は全体的にトイレが分かれていて（共用ではなく個別）特に Court（と

Gate?友達によると)はキッチンやリビングも広く快適です。私の結論としては、現地の学生と濃厚な接点を持ちたいなら通期の留学を選び Talybont を希望して申し込むのが一番良いなと感じます。

現地に関する情報

1) 留学中は病院にかかりましたか？

☒はい（利用機関名：Cwtch Dental Care）☐いいえ

2) 大学内の医務室や診療所で医療サービスは受けられますか？

☐はい　☐いいえ　☒わからない

3) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか？

歯医者の受診時は電話で保険のオペレータの方に相談した。

4) 留学先大学に相談窓口はありましたか？

☒はい　☐いいえ　☐わからない

5) 現地の危険地域に関する情報はどのように収集し，どう防犯対策をしましたか？

情報収集	☐現地コーディネーター　☒友人　☐ネット（参考サイト：　　） ☐その他（　　）
防犯対策	狙われるのは主にパスポートとスマホ。特にロンドンでは細い路地では特に擦れ違う二人組やバイクに乗る人に警戒を強める、怖そうな人（性別や人種や外見や行動で判断）は警戒する、パスポートはズボンの前ポケットに携帯する、スマホはテーブル上に置かない、歩きスマホしない、など意識した。基本的にカーディフは学生街であり治安が悪くはないためバッグからは目を離さない等の基本的な警戒しかしなかった。

6) 実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれましたか？

☐はい　☒いいえ

7) 6 で「はい」と答えた方：その際どのように対処しましたか？

8) パソコン，携帯電話，インターネットについて，現地での利用状況はいかがでしたか？

パソコン	問題なし
インターネット	渡航後の一か月はビザセンターにて無料で貰った Lebara の SIM カードを使用していた。その後、アイルランドへ旅行する機会があり、ヨーロッパで 5GB まで無料で使える giffgaff の eSIM に移行した。giffgaff には学生プランがあり、月£10 で月 100gb を使用できたと記憶している。両者とも格安ネットだったからかもしれないが、通信の品質は日本より圧倒的に悪く、最低限は使えるが特に地下や建物の中などはつながらない所が多い。
携帯電話	問題なし

9) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ お勧めの方法があれば紹介して下さい。

現地の口座は開設してはいない。日本にてソニー銀行を開設し、外貨預金口座（ポンド）を開設した。留学前に一回と留学中に一回、両親からソニー銀行の日本円口座に送金して貰い、すぐ両替して（外貨を購入し）外貨預金口座（ポンド）に両替した。外貨預金口座を開設しないと（日本の口座と紐づいたクレジットカードやデビットカードからの決済だと）支払いの度に両替手数料がかかるが、外貨預金口座を開設するならポンドを購入する時だけにしか両替手数料がかからぬため節約できたと記憶している。また、ソニー銀行は現地の口座に振り込んだり現地口座から振り込み受けたりできないため、留学中に Revolut という多国籍口座を開設して現地の学生と割り勘や電車の遅延の返金、ジムの料金の口座引き落としなどに対応した。正確には記憶していないが日本から持参したマイナンバーカードや運転免許証？を使い開設できたような気がする。友人には Wise を開設した子もいた。Wise を使う友人も振込に対応していたから Wise も良い選択肢と思う。

10）日本から持参すべき物があればご記入ください。
箸・文房具類・薬類・整腸剤等

進路について

1）進路
☒就職　☐進学　☒未定　☐その他（　　）
2）進路選択はいつ・どのようにされましたか？
留学の半年程前から就職を軸に就職活動を行っている。しかし、未だ内定は出ていない。5～6 月頃から会社説明会やインターンシップ等に参加していた。また、留学の直前の夏休みに複数社のインターンシップにも参加した。留学中はインターンシップからご縁があった企業（二社）について早期選考にも参加した。一社目は不合格で二社目は帰国後の最終面接に進んでいる。一社目が不合格になったショックから拗ねてしまい、それ以降は就活は殆どやっていない。(念の為にロンドンキャリアフォーラムに参加したが、選考には進まなかった）留学も終盤に差し掛かってそのままではまずいと思い東京サマーキャリアフォーラムの求人に応募している。また、早期選考から最終選考へと進んだ企業の（二社目の）最終面接に臨んでいる。
3）就職を選択した方は，内定時期とその企業を選んだ理由を教えて下さい。

内定時期	未だ出ず
企業名	
業界	工作機械業界
その企業或いは業界を選んだ理由	工場等の自動化や省人化に貢献し、産業全体の人手不足の解決に貢献をしたいと考えたから。

4）就職活動について，留学希望者へ向けたアドバイスをお願いします。
特に無し
5）進学を選択した方は，進学先が決定した時期とそこに決めた理由を教えて下さい。

進学先決定時期	
進学先	（差支えなければご記入ください）
その進学先を選んだ理由	

6）進学について，留学希望者に向けたアドバイスをお願いします（試験対策など）。
7） その他を選択した方は，今回の留学経験がご自身の進路選択にどのような影響を与えたかご記入ください。

留学に関するタイムチャート

２０２４年１２月 **選考試験日**	IELTS 勉強・合格 留学体験記を読む・学部事務室に協定校からの留学生を紹介して貰う・など協定校を選ぶ 留学計画書の準備 面接の準備

２０２５年１月～４月 合格発表後～出願準備期間	3 月まで　合格の発表に油断して何もせず 3/25 頃　カーディフ大学から出願の手順の説明 4/28 頃　カーディフ大学に出願
２０２５年５月～９月 出願後～渡航の準備	4/28 頃　カーディフ大学から学生用サイトへのログイン手順説明 4/30 頃　出願の情報に間違いを発見したため訂正依頼 5/8 頃　明治経営事務室から奨学金の申請資格保有について連絡 5/14 頃　カーディフ大学から入学許可 5/15 頃　明治経営事務室から学部斡旋の旅行保険の案内 5/24 頃　明治経営事務室にカーディフに留学中の明大生を紹介して貰い情報収集開始 5/28 頃　カーディフ大学からのメールに無関係のインドの留学コーディネーターが CC に入っていたため訂正依頼 5/31 頃　カーディフ大学に学生寮の申し込み 6/6 頃　カーディフ大学から VISA の取得に必要な CAS 番号が発行 6/9 頃　明治経営事務室に留学届などの必要書類を提出 6/9 頃　明治経営事務室に JASSO 奨学金の申請書類を提出 6/13 頃　カーディフ大学から授業のシラバスが送信 6/20 頃　明治経営事務室の留学派遣前ガイダンス（オンライン） 7/1 頃　明治経営事務室から JASSO 奨学金の学内選考通過の連絡 7/5 頃　航空券の購入（ANA） 7/8 頃　VISA 申請・ビザセンター予約 7/11 頃　カーディフ大学から学生寮の確定の連絡 7/24 頃　ビザセンター訪問 7/29 頃　ビザセンターからビザ発行成功の連絡 8/3 頃　学部斡旋の旅行保険に申し込み 8/4 頃　ビザセンターへとパスポートを受け取り 8/12 頃　E ビザを登録 8/22 頃　明治経営事務室から JASSO 奨学金の受給決定の連絡 8/29 頃　カーディフ大学から入学登録（履修登録など）手順説明 ※私は協定校の大学から時々必要な連絡が届かない等のトラブルがありました。留学してわかったのはメルアドについて先方の登録にミスがあったようです。上記の流れと著しく異なる場合には念の為に問い合わせるのが良いかもしれません。 ※また、ビザの申請はもう少し早い方が焦らないなと思います。私は少し後回しにしたので 7 月前半にかなり焦りました。（申請書類のチェックは厳しいし繁忙期はビザの発行に長く時間かかると聞いていたので）結果的に杞憂に終わりましたが、ビザの発行は留学にとって致命的な手続きなので、早いに越したことはないと思います。
２０２５年９月 留学開始直前	英語の勉強はほとんどやらない カーディフ大学が開催している留学生の歓迎イベントなど各種イベント予約 履修登録（仮）
２０２５年９月 留学開始	ロンドン観光（カーディフ到着前） 入寮 留学生オリエンテーション参加（全学部・学部毎） 留学生の歓迎イベントと新入生の歓迎イベントに参加 大学主催ストーンヘンジツアーへと参加 授業開始

	履修登録（本）
２０２５年１０月～１２月 留学中	留学後に張り切りすぎたからか体調を崩す（Freshers Flu というらしく現地の学生はほぼみんなが体調を崩していた） １０月　ハロウィンで仮装 １１月　アイルランド旅行 １２月　クリスマスのディナー 日照時間が非常に短くなり精神的に参ってしまう エディンバラ旅行 家族が渡英・案内
２０２６年１月～３月 留学中	１月　テストの勉強・エッセイ課題 テレビを購入 ２月　ロンドンキャリアフォーラムに参加 コッツウォルズを旅行 誕生日のディナー ３月　ビーチにいく 中央ウェールズを旅行 精神的に参ってしまう（Part 2）
２０２６年４月～６月 留学中	４月　精神的に参ってしまう（Part 2 続き） 母親が渡英・案内 バーベキューする ５月　テストの勉強・エッセイ課題 ドイツを旅行 北ウェールズ旅行 ６月　オックスフッドを旅行 バースを旅行 川で釣り
２０２６年６月～７月 帰国後	学部事務室に帰国届などの必要書類を提出 東京サマーキャリアフォーラム参加 留学中に選考に進んでいた企業の最終面接に参加 アルバイトを探す 家族や友人に挨拶

留学体験記

あなたが「留学」という道を選択した理由を教えてください。	
形式的に言うなら日本で学んでいた経営学、特に経済学や会計学をより深く学び数字の視点を身に付けるため、英語力を向上するため、多様な価値観に触れ視野を広げることでした。しかしながら実際には環境を変えて自分を変えるきっかけ作りたい方が強かったです。（留学の選考においては前者の動機を説明しました）留学前の直観は正しく結果的に留学後に達成した方は主に前者ではなく後者だと感じております。	
語学について	
受験した語学能力試験	☐TOEFL-iBT　☐TOEIC　☒IELTS　☐その他（試験名：　　）
ご自身の英語力向上に効果があった勉強方法	高校時代にやっていたシステム英単語を復習する

総合的なアドバイス	特に無し
この留学先を選んだ理由を教えてください。	
一年間に渡り英語圏で経営学を学ぶ事が条件でした。特に「経営学を学ぶ」事を実現する為に主に経営学部学部間協定留学を選択しました。「英語圏」の選択肢はアメリカのノースカロライナ大学シャーロット校とイギリスのカーディフ大学とカナダのヴィクトリア大学の三つの選択肢がありました。また大学間協定留学の内でジョージア大学も経営学が深く学べると判断して選択肢に追加しました。四つの大学の内でカナダは政府の方針により半期に変更になる可能性があったため「一年間に渡り」の条件を満たさぬ可能性を考え除外しました。最終的に選考には第一志望：ジョージア大学、第二志望：ノースカロライナ大学、第三志望：カーディフ大学で臨み、第一志望と第二志望に落選したため第三志望のカーディフ大学に留学することになりました。第三志望ではありましたが、結果的に留学を終えて、カーディフ大学に行けた事に対し非常に満足をしております。	
大学（キャンパス）と学生の雰囲気を教えてください。	
大学（キャンパス）	学部毎にキャンパスが分かれています。ビジネススクールのキャンパスは主に三つの建物で構成をされています。比較的新しい建物と比較的古い建物と中間くらいの建物です。ただ古い方の建物も、歴史的な美しさがあるわけではないため、キャンパスの美しさを求める人には適切ではないかもしれません。またビジネススクールから近い図書館も同じ様に新しくも古くもなく情緒は控えめです。しかし、勉強を出来る空間が沢山あって素晴らしいと思います。また、基本的に 24 時間 365 日開館しているため例えば締切の前日等は図書館で徹夜して一夜を越したこともありました。キャンパスに自動販売機や売店があって飲み物や軽食や菓子が売られています。また、ビジネススクールの食堂では昼ご飯が 6 ポンドで提供されており、イギリス的な物価では安い方です。
学生	日本人の大学生と比較し非常に社交的というのが一番の印象です。非常に優しく、素直で関わり易いです。非常にオープンで、おたがい話し始めると止まらないことが無いです。パーティーや騒ぐ事や酒好きやタバコ好きが多く特に毎週水曜日や金曜日や土曜日は皆パブやクラブに繰り出します。また、日本人と比べ遊びのレパートリーが非常に広く、暑くなったらビーチに行ったりバーベキューしたりとワクワクです。一方、学習面においては、出席が成績に全く影響しないからかクラブに行き昼夜が逆転をしているからか、レクチャーやチュートリアルの出席率は低く全体的に半分程度であった印象です。ただ、出席している学生を見ると明治と比較し多くの学生が授業中にノートを取るなど授業の内容に集中していて私語も少なく真面目です。また、現地の学生はみなテストの直前には図書館や自分の部屋にこもって勉強していました。現地の学生のメリハリはすごいです。
現地での交友関係について教えてください。	
正規学生との交流	週に一回程の頻度でパブに行ったり時折クラブに行ったり一緒に散歩したり買い物したりしました。授業の合間にビリヤードを打ったりテストの直前には一緒に勉強したりしました。ハロウィンはみんなで仮装して街に繰り出したりクリスマスはみんなでディナー食べたりしました。夏はみんなでビーチに行ったりバーベキューをしたりしました。終盤にはみんなでキャンプして山登りをしました。
留学生との交流	オーストリア人、フランス人、ドイツ人、オランダ人、韓国人、ベルギー人の交換留学生およそ二人ずつとの交流がありました。カーディフの周辺を散策したりパブで飲んだり夕食を食べたりといった交流を続けていました。しかしほとんどの学生は半期だけの留学であったため秋学期は関わりが頻繁でしたが春学期は関わりがほとんどなかったです。
留学先大学主催のイベントについて教えてください。	
留学生同士の交流イベントが、二か月に一回ほどありました。その後の交流次第では友達をつくる機会にはなるでしょう。ただ、最初のほうは多くの学生が参加していたが、回数を重ねる毎に参加者は減少	

しました。イベントの内容が毎回同じだからでしょうか…少しく内容が単調だからでしょうか…また、我々のような現地に留学している学生と現地から各国へと留学する予定の学生を繋げるイベントもありましたが日本に留学する大学生は参加しておらずそのイベントでは繋がることはできませんでした。イベント前に担当者に参加者を聞いてみると良いと思います。

課外活動について教えてください。

秋学期はオーケストラのソサエティーに入会していました。ただ、週に一回合奏するだけでパート練習などがない、参加率が悪く毎回参加している人も少ない、などみんなで一生懸命練習して上達するというような雰囲気ではなかったです。ただ楽しんで合わせるというだけだったため、少し自分の楽しみ方と合わずに秋学期だけに所属して春学期は退会してしまいました。また、春学期は友人の誘いもありジャパニーズソサエティーへと入会しました。二週に一回程、日本に関するクイズを行ったり折り紙などの日本の遊びを教えたり、パブで会話をするというような活動内容でありました。私は熱心に参加をしていませんでしたが、参加した際は内容も楽しく非常に楽しむことができました。日本に興味のある現地の学生と繋がることができるため、特に現地学生との接点に苦労をしている学生にとって現地学生との貴重な接点になりえます。

一日の課題の量を教えてください。

ほぼありませんでした。学生達は各授業で予習や復習を行う事や二週に一回のチュートリアル（問題演習・解説授業）の予習を進める事が推奨されたり参考の文献を読む様に推奨されたりしています。しかし、チェックはされないしチューターは問題の解説を淡々と行っているため、現地の学生で授業の課題を真面目にこなしている人はまず見なかったと記憶しています。つまりはほとんど自己責任自分ペースで学習を進める事が許されています。ただ、現地の学生はみなテストの直前には図書館や自分の部屋にこもって勉強していました。現地の学生のメリハリはすごいです。

期末試験について教えてください。

成績評価については、期末試験のみもしくは期末エッセイのみの場合が多いです。私の場合には 4 教科ほどが期末試験で 2 教科ほどが期末エッセイでした。期末試験については、試験前に過去問や模試が掲載されます。授業のスライドを見直して、チュートリアルで解いた問題を見直して、過去問や模試を解いてしっかり準備をすれば単位の取得は問題ありません。ただ、採点の基準は明治より厳密で厳しく、明治における S（現地では 70%以上）を取るのは非常に難しいです。期末エッセイについても、授業で引用された論文等を参照して自分の意見を最低限で述べられれば単位の取得は問題ありません。一方で同様に、採点の基準は明治より明確で厳しく、信頼性の高い文献を参照したり論理を明確にしたりせねば明治における S（現地では 70%以上）を取るのは非常に難しいです。ちなみに、期末試験は、大学ではなく（大学の科目もあるだろうが）カーディフのアリーナやコミュニティセンターなどの様々な場所で行われます。アリーナは一度に 1000 人ほどが試験を受けられるため、非常に壮観です。期末試験では学校に認められた辞書なら持ち込み可能です。

留学先で直面した困難（壁）について教えてください。

留学中に直面した一番の障壁は、言語や学習の内容ではなく、自分自身における消極性でした。留学先においては、挑戦するチャンスはどこにでもあります。現地の友達と深く関わって文化や習慣を知る、ヨーロッパを旅行してイギリスとの違いを楽しむ、アルバイトやファームステイをして英語を使って働く…目の前に選択肢は幾らでもあるのにそれらに手を伸ばせずにいたときが一番壁を感じていたと思います。上記の中でも特に、積極的に友達と関わる事に苦労していました。留学した当初、私は失敗を恐れて自分から話しかけることを躊躇してしまいました。その結果、関わりが受け身になりなかなか相手と距離を縮められませんでした。当初は、それでも優しい友人が声をかけ続けてくれたが、次第に時間が経ち孤独な時間が増加しました。人と関わりたいが人と関わることが怖いというようなジレンマがありました。それを乗り越えるために、一日一人以上コミュニケーションを取る事を目標にし、少しずつ食事や外食に誘っていきました。結果的にはじめは高いハードルであった現地学生とのコミュニケーションも、自然と取れる様になっていきました。また、交流を重ねる内に現地の学生の積極性を自分の行動に取り入れるようになり、意見や感情を言葉や行動に表す事ができるようになり、コミュニケーションも楽に取れる様になりました。その結果、会話や行動の幅が広がって現地の友人と深い関係性を築けるようになり、帰国後の日常にも活かせています。当初、乗り越えられないとまで感じていたようなこの壁を乗り越えられたことは自分の人生にとっても非常に大きく、帰国後の自信にも繋がっています。

これから「留学」を考えている人へメッセージをお願いします。
私は留学前に、「やりたい事が無い人はとりあえずでもいいから留学しておけ」との意見と、「留学は目的を明確にしてから行くべき」との意見の間で迷う事がありました。両者、説得力がありますが、留学を終えた後の私の意見としては、前者７割後者３割です。留学の前には、選考を突破したり周囲を説得したりする為に、少し違和感を持ちながらも、経済学や会計学を本格的に学ぶ、英語を上達させる、多様な価値観に触れ視点を増やす、など、明確な目的を設定していました。しかし、留学を完了して思う事は、それらの当初設定した目的は途中で重要性を減らした（言葉を選ばず言うならどうでもよくなった）一方、留学前に想像もしなかった様な貴重な学びを沢山得られたということであります。明確な目的がある方はそれに向かい励むことも大切だと思います。ただ、目的が定まらないからといって尻込みをしてしまうよりも、目的は仮に定める位にしてええいと留学先に飛び込んで流れに任せてしまう方が結果的により多くのものを吸収して手に入れられるような気がします。もし自分を変えたくてまよっているなら、ぜひ留学に挑戦をしてみませんか？また、もし不安なことがあるなら、私も可能な範囲でぜひともサポートさせていただきたいと考えていますので学部事務室に相談して繋いで貰ってください！

留学先で履修した授業科目

記入日：2026 年 06 月 20 日

学習レポート（留学先で履修した科目ごとに記入してください）	
1)留学先	Cardiff University (Cardiff Business School)
2)留学先で取得した単位数	120 単位
3)本学で認定された単位数	☒ 24 単位 ☐現在単位認定中（認定予定の単位数：19 単位） ☐単位認定はしません（理由：　　）
4) 留学先で履修した科目について	
履修した授業科目名①	
Macroeconomic Theory	
科目設置学部	Business School
履修期間	2 Semesters　（計 20 週程度）
留学先の単位数	20
帰国後の単位認定	☐ 4 単位認定※本学で認定された単位数を書いて下さい。 ☐単位認定しません
授業形態	☒講義形式　☒チュートリアル　☐その他（　　）
授業時間数	1 回 100 分の講義が週 1 回・1 回 50 分のチュートリアル（問題解説）が週 0.5 回
担当教授	Wojtek Paczos（秋），Haomin Wang（春）
授業内容	45 度線分析、WS-PS モデル、3 方程式モデル（IS-PC-MR）、金融政策について、財政政策について、バブル経済について、金融危機（リーマンショック）について、4 方程式モデル（IS-RX-PC-MR）、労働市場におけるフローとストックについて
試験・課題など	秋学期の定期試験 50%と春学期の定期試験 50%の成績評価。エッセィ課題なし。週 0.5 回のチュートリアルの予習（問題演習）が推奨をされているが確認も提出もなし。
感想を自由記入	最も難解だが最も興味深かった授業。日本ではマクロ経済を静学的な視点から分析するのに対し、イギリスではマクロ経済を動学的な視点から分析する。例えば、日本では需要と供給のバランスがこうなっているから均衡点がここにくるというような教え方をするが、イギリスではこういう要素が市場に影響を与えて需要と供給のバランスがこう動いて最終的に均衡点がここに落ち着く、というような考え方をする。非常に複雑で結果的に殆ど理解できなかった。ただ、経済学をこれからも学び続ける上で、止まっている経済を分析する視点と動いている経済を分析する視点の両方を得られたことは非常に素晴らしい学びになったと思う。マクロ経済学が好きな人にはオススメの授業である。
履修した授業科目名②	
Microeconomic Theory	
科目設置学部	Business School
履修期間	2 Semesters　（計 20 週程度）
留学先の単位数	20
帰国後の単位認定	☐ 4 単位認定※本学で認定された単位数を書いて下さい。 ☐単位認定しません
授業形態	☒講義形式　☒チュートリアル　☐その他（　　）
授業時間数	1 回 100 分の講義が週 1 回・1 回 50 分のチュートリアル（問題解説）が週 0.5 回
担当教授	Lena Sheveleva（秋），（春）
授業内容	消費者理論、生産者理論、独占・寡占・完全競争市場について、ゲーム理論、行動経済学

試験・課題など	秋学期の定期試験 30%と秋学期のグループプロジェクト 20%と春学期の定期試験 50%の成績評価。エッセィ課題なし。週 0.5 回のチュートリアルの予習（問題演習）が推奨をされているが確認も提出もなし。
感想を自由記入	日本のミクロ経済学と教え方はあまり変わらなかった。したがって日本のミクロ経済学と難易度は同じくらいだと思う。秋学期は消費者理論を学び、主に無差別曲線や予算制約線の動き方を分析し、消費者の効用最大化について学んだ。春学期は生産者理論を学び、完全競争市場や寡占市場や独占市場について分析し、生産者の利潤最大化について学んだ。また、消費者理論と生産者理論を組み合わせて分析する事で社会全体における余剰の最大化についても学んだ。

履修した授業科目名③

Management Accounting

科目設置学部	Business School
履修期間	2 Semesters （計 20 週程度）
留学先の単位数	20
帰国後の単位認定	☐ 4 単位認定※本学で認定された単位数を書いて下さい。 ☐単位認定しません
授業形態	☒講義形式 ☒チュートリアル ☐その他（ ）
授業時間数	1 回 100 分の講義が週 1 回・1 回 50 分のチュートリアル（問題解説）が週 1 回
担当教授	Patrick Wylie（秋）, Patrick Wylie（春）
授業内容	Absorption Costing（ABC）、Process Costing（FIFO, WAC）、CVP analysis、Variable analysis
試験・課題など	秋学期のエッセィ 40%と春学期の定期試験 60%の成績評価。週 1 回のチュートリアルの予習（問題演習）が推奨をされているが確認も提出もなし。
感想を自由記入	内容としては、日商簿記検定二級レベルの工業簿記とそれを活かした管理会計の分析だった。イギリスでは簿記を大学で学ばないようで、簿記的な教え方ではなく本質的な教え方をしていた（材料費と労務費と間接費みたいな）。難易度は簿記二級を持っている人にはちょうど良いくらいで、持っていない人にはかなり難しいと思う。私は簿記二級を持たずに渡航したので非常に難しく感じた。ただ、帰国後に簿記二級を勉強していると、工業簿記についてはイギリスで学んだ内容が多いので苦手意識を持たずに勉強できている。日本とイギリスの会計の教え方の違いを知れ、会計に対する視野が広がったように思う。

履修した授業科目名④

Corporate Financial Management

科目設置学部	Business School
履修期間	2 Semesters （計 20 週程度）
留学先の単位数	20
帰国後の単位認定	☐ 4 単位認定※本学で認定された単位数を書いて下さい。 ☐単位認定しません
授業形態	☒講義形式 ☒チュートリアル ☐その他（ ）
授業時間数	1 回 100 分の講義が週 1 回・1 回 50 分のチュートリアル（問題解説）が週 0.5 回
担当教授	Mengyuan Chen（秋）, Jiaman Xu（春）
授業内容	NPV、WACC、Break-even analysis、Sensitive analysis、Scenario analysis、CAPM、Option Pricing
試験・課題など	秋学期の定期試験 50%と春学期の定期試験 50%の成績評価。エッセィ課題なし。週 0.5 回のチュートリアルの予習（問題演習）が推奨をされているが確認も提出もなし。
感想を自由記入	正にファイナンスの授業。割引現在価値や資本コスト、リスク分析、オプションの分析などを行い、企業が何にいつ投資するべきかするべきではないのかについて学ぶ。資本コストやリスク分析では、株主の期待やリスクの大きさといったような非常に抽象的な概念を数式化するため、発想の転換が必要で難しかった。また、沢山の計算をしなければならないが、それぞれの計算についてなぜこういう数式になるのかなぜこういう風に計算しているのか理解しながら計算しなければならず、非常に難しかった。明治大学の経営学部には本格的なファイナンスの授業が少ないため、ファイナンスを本格的に学びたいと考えている人にはオススメの授業である。

履修した授業科目名⑤

Managing People	
科目設置学部	Business School
履修期間	2 Semesters　(計 20 週程度)
留学先の単位数	20
帰国後の単位認定	☐ 4 単位認定※本学で認定された単位数を書いて下さい。 ☐単位認定しません
授業形態	☒講義形式　☒チュートリアル　☐その他（　　）
授業時間数	1 回 100 分の講義が週 1 回・1 回 50 分のチュートリアル（問題解説）が週 0.2 回
担当教授	Catherine Mackintosh（秋）, Julian Gould-Williams（春）
授業内容	Recruitment, Education, Motivation, Reward, Diversity, Bullying など
試験・課題など	秋学期のエッセイ 50%と春学期のエッセイ 50%の成績評価。
感想を自由記入	経営管理についての授業。上記の四つの授業と異なり、具体的な例を交えながらより良い管理法を教えるような、数字を使わず学ぶ事のできる科目。より現実的な議題なので非常に理解しやすく簡単だと感じた。正直なところ、内容としては日本でも学ぶ事の出来る内容でありイギリスでしか学べない内容ではない。したがって留学中に履修する事は単位の目的以外ではあまりおすすめできない。ただ、私にとっては上記の四つの授業が非常に難しく単位の取得も危うかったため、この授業の存在には非常に安心させられた。
履修した授業科目名⑥	
Employment Relations	
科目設置学部	Business School
履修期間	2 Semesters　(計 20 週程度)
留学先の単位数	20
帰国後の単位認定	☐ 4 単位認定※本学で認定された単位数を書いて下さい。 ☐単位認定しません
授業形態	☒講義形式　☐チュートリアル　☐その他（　　）
授業時間数	1 回 100 分の授業が週 1 回
担当教授	Leon Gooberman（秋）, Leon Gooberman（春）
授業内容	Employee、Employer、Government、Collective Bargaining、Zero Hour Contract、Brexit、Modern Slavery
試験・課題など	秋学期の定期試験 50%と春学期のエッセイ 50%の成績評価。
感想を自由記入	労使関係について学ぶ授業。労働者と雇用者と政府の役割や関係が労働環境にどのように影響するのか学ぶ学問であった。Managing People と同様に具体的な事例が中心の学問であり理論的で抽象的な内容ではなかったため、当初は履修したことを後悔していた。しかし、学習を進めるうちに労使関係が経済に大きな影響を及ぼしていると考え始め、また、日本とイギリスの労使関係を比較するような視点も身に付き、現在では履修してよかったと思っている。例えば、労使関係において重要な要素として労働組合が有る。日本では労働組合は企業別で力をあまり持たないが、イギリスでは特に公共部門やインフラ部門で強い力を持ち、ストライキが起き電車やバスがキャンセルになることが沢山ある。そのような事例に触れることで日本の労使関係の特殊性や日本の経済の停滞に対して考えを膨らませることができた。また、ブレグジットがどのように労使関係を与えたのかや移民が労使関係に与える影響など、イギリスでしか学べない要素がこの授業には沢山あったように思う。